

# JFTP NEWS

Japan's Friendship Ties Programs



## WORKING FOR A JAPANESE COMPANY

**特集** 日本企業で働く同窓生をインタビュー！

2024  
11

- 01. MIRAI 2018 参加者 ジェシカ・ルスナックさん (モルドバ)
- 02. JENESYS SAARC 2018 参加者 エシャーン・マーリンダさん (スリランカ)

【JFTP PRESS】

カケハシ 2017 参加者 デイドラ・トゥフォンさん 2024 Ms. Black USAに!

ISSUE  
14  
No



モルドバ

# ジェシカ・ルスナックさん

Jessica Rusnac



- ・ ユニクロ モールオブスカンジナビア店 ストアマネージャー
- ・ 2018年度 MIRAI参加者（経済・ビジネス）
- ・ 参加当時：大学生



## 欧州で日本の“おもてなし”を

### 初日本が人生の転機に

私はスウェーデン・ストックホルムの「ユニクロ モールオブスカンジナビア店」でストアマネージャーとして働いています。スウェーデンにはユニクロが3店舗あり、私が働く店舗は2店舗目として2020年8月にオープンしました。同僚は世界各国から来ていて、とても国際色豊かなチームです。MIRAIで日本を訪れたことが、いまこうして日本企業のユニクロで働ききっかけとなっています。

MIRAIに参加したのは大学生のとき。国際ビジネスを学ぶ学生として、日本の経済や文化に興味がありました。私にとって初めての訪日でしたが、愛知県でのホームステイが一番印象に残っています。それまではお茶とサンドウィッチで済ます欧州の簡単な朝食に慣れていたので、ホストファミリーが用意してくれた魚や野菜が並ぶ日本の朝ごはんは、とても感動しました。欧州でもよく知られているトヨタ自動車を視察できたことも、大変興味深かったです。

### ユニクロとの出会い

プログラムが終わり日本を離れる直前、空港でたまたまユニクロのお店に入りました。大学があったルーマニアには今でもユニクロの店舗が無いですし、そういったブランドがあることを当時は知りませんでした。もともと服は好きでしたが、ユニクロのTシャツブランド「UTコレクション」がとても素晴らしくて、その場でTシャツを購入しました。帰国後に日本の文化やマネジメントについて改めて調べる中で、より日本への興味が沸き、欧州にいながら日本とつながりたいと思うようになりました。フランス・パリのユニクロの店舗にも実際に足を運び、商品の質の高



▲研修で訪れた東京のユニクロ有明本部（2023年9月）



さからユニクロにさらに魅力を感じ、採用試験を受ける決意をしました。

大学を卒業後、2019年9月からユニクロで働き始めました。それはMIRAIに参加してから約1年半後のことです。ユニクロで働く中で、日本の価値観が私たちの日々の仕事にたくさん取り入れられていると感じています。特に欧州との大きな違いは、どのようにホスピタリティを表現するかです。私たちはお店を訪れてくれた全ての人を“ゲスト”として扱うよう努めています。欧州でももちろんお客様をもてなしますが、日本はレベルが違います。日本ではコンビニでさえも、いつもお客様と店員の交流があります。そういった日本の文化は好きです。

### 欧州で日本とつながる

MIRAIに参加していなかったら、ユニクロで働いていたかどうか、こんなに日本への興味が続いていたかどうかわかりません。欧州とは全く違う、新しい世界に出会うことができました。日本食も好きになって、今ではスウェーデンのレストランよりも日本食レストランによく行くほどです。

スウェーデンのファストファッションは世界的に知られていますが、ユニクロは欧州のお客様のニーズを大切にしながら商品展開を工夫し、市場に適応してきました。今後さらに成長していくポテンシャルがあると感じています。私自身もユニクロで働く中で成長し、欧州にいながら引き続き日本とつながりを持ち続けたいです。



スリランカ

# エシャーン・マーリンダさん

Eshan Malinda

JENESYS

- ・ 多摩川精機株式会社 海外営業部
- ・ 2018年度 JENESYS SAARC参加者（農業）
- ・ 参加当時：大学生

## 日本で就職する夢叶える

### 初海外はJENESYS

航空・宇宙関連機器の設計・製造を手掛ける多摩川精機株式会社（本社・長野県飯田市）に入社して3年目になります。海外営業のインド担当として、現地の代理店と日々やりとりをしています。現在は日本で働いていますが、私が初めて海外を経験したのはJENESYSでした。

日本に興味を持ったきっかけは、アニメというわけではなく、日本の車や機械の品質が良いことや、日本人が時間を守る姿勢が素晴らしいと思ったからです。スリランカではあまり時間を守らないので、そうした日本のイメージに憧れがありました。JENESYS参加時は、スリランカのケラニヤ大学日本語学科で学んでいました。日本語を学んでいたのが実際に日本に行ってみたいと思い、さまざまなプログラムを探しました。JENESYSは大学の先輩も参加していて、いろんな国の同世代の参加者と一緒に日本を体験できるプログラムだと知り応募しました。

### “日本の家族”との縁

特に印象に残っているのは、熊本県でのホームステイです。どうしても滞在中に日本の新幹線を見たくて、ホストファミリーに駅まで連れて行ってもらいました。ホームで新幹線が駅を通過するところを目の当たりにし、その速さに驚きました。JENESYSに参加後、2019年夏に大学推薦の国費留学生として再び日本に戻ってきました。留学先は長野

県の信州大学。ケラニヤ大学と信州大学が交流協定を結び、交換留学の一期生として選ばれました。滞在していた一年間で日本人の友人がたくさんでき、日本語力がぐんと伸びました。留学前から日本に就職することを考えていて、信州大学の先生方に就職の相談をし、長野県のジョブフェアにも参加しました。そして、いま働いている多摩川精機から内定をいただくことができました。職場では人間関係に恵まれ、同僚と一緒に山を登ったり、社員旅行に行ったりと、充実した日々を過ごせています。

JENESYSのときにお世話になったホストファミリーとは今でもつながっていて、日本に戻ってきてからも泊まりに行ったり、誕生日を祝ってもらったりしています。私から長野のりんごを送ることもあります。ホストファミリーのおかげで「日本にも家族がいるんだ」と思っています。

### 人間関係のベースを培った

JENESYSは私の人生にとっても良い影響を与えてくれました。スリランカにいたときに思い描いていた日本のイメージ、例えば日本人が時間を守ることや礼儀正しく優しい国民性ということが、まさにその通りだと実感しました。もちろん長く日本に住む中で、より複雑な日本の側面にも気づくようにはなりましたが、一番大きいのは、ホストファミリーとのつながりです。日本にも、故郷と同じように人間関係のベースがある。その土壌を最初に培ってくれたのがJENESYSです。こうした縁をくれたJENESYSには心から感謝しています。



◀ 職場の同僚と山登り



▲ JENESYSのホストファミリーと

## ディドラ・トゥフォンさん（2017年度カケハシ参加者・アメリカ） 2024 Ms. Black USAに輝く!!

2024年8月にワシントンD.C.で開催されたMs. Black USA大会において、カケハシ同窓生のディドラ・トゥフォンさんが、全米の頂点に輝きました。Ms. Black USAは、全米の有色人種の若い女性を対象とした歴史あるビューティー・ページェント。ディドラさんは「カケハシや群馬での外国語指導助手(ALT)の経験で自信がつき、いまの私がある。ステージに立ったのは一人だけど、この栄冠はみんなのおかげ」と喜びを語りました。

日本のアニメをきっかけに、子供のころから独学で日本語を学び始めたディドラさん。ネバダ大学リノ校の副専攻で日本語を学んでいたところに、カケハシに参加しました。愛知県を訪れたことが特に印象に残っていると話し、「ホームステイではお母さんの料理にLOVEを感じた。大都市の東京だけではなく日本のどの地域に住んでも楽しい経験ができるんだとわかった」。この経験が、大学を卒業した2018年夏から1年間、ALTとして群馬県高崎市に赴任することにつながりました。Ms. Black USA大会に出場したときには「思い出の地・高崎のだるまで願掛けしました!」と笑顔で教えてくれました。



▲カケハシ参加時のディドラさん

2022年には、TBSテレビ「世界ふしぎ発見!」に現地レポーターとしても出演し、日本語でサンフランシスコのチャイナタウンを紹介するなど、目覚ましい活躍を見せています。現在は、代替教員や俳優などの仕事を掛け持ちしながら、Ms. Black USAとして全米各地やアフリ



カなどでのチャリティー活動に向けた準備をしています。

「以前はとても恥ずかしがり屋な性格でしたが、カケハシで日本を訪れたおかげで自分に自信がついた。新しい場所で新しい人に会うことが楽しいと教えてくれたカケハシは、私を支えてくれるかけがえのない宝物」と語り、「私は東アジアの文化が大好き。色んな人種がいるけど、みんな違ってみんないい、同じ人間だから一緒に頑張ろう、ということをやより広く伝えられる存在になりたいです」と目標を教えてくださいました。

### 編集後記 - Editor's Note -

今号からリニューアルした「JFTP NEWS」いかがでしたでしょうか? 対日理解促進交流プログラムの同窓生にはオンラインで取材することが多いですが、画面越しでも彼らの日本愛がひしひしと伝わってきます! そんな彼らの活躍をこれからもお届けしていきます。今後もお楽しみに!



一般財団法人日本国際協力センター（JICE）は、主に日本国政府や地方自治体、企業からの依頼に応じ、世界各国の社会開発課題に資する人材育成のお手伝いや日本についての理解を促進する事業を展開しています。

JFTP News 第14号 2024年11月22日発行

編集・発行：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）国際交流部  
EMAIL: kokusaikoryu@jice.org

JICEについて詳細はHPをご覧ください。

<https://www.jice.org>

HPIはコチラ▶

●本誌掲載の記事、写真などの無断転載を禁じます。

©2024 JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION CENTER

